



社会福祉法人 愛光会 認定こども園

# ハローうさぎ山

令和7年度

自己評価集計結果

認定こども園 ハローうさぎ山





チェックリスト全体を振り返って、あなたにとって「気づき」の大きかったもの、特に印象深かったもの

保育指針や要録といったものを具体的に説明することが難しく、知識として身につけていないことに気づいた。今後身につけるために指針、要録を復習するだけでなく、実際の現場でアウトプットし、知識として身につけていきたいと感じた。また、今年担当する年齢だけでなく、未満児から小学校までのつながりを考え、全体的に内容を把握していきたいと感じた。

よく見ていきたい内容としては、いいえが多かった表現の分野や、変化の多い人間関係、健康の内容をよく復習していきたいと感じた。表現に関しては、音楽活動を重点的に見ていき、より充実した活動内容を考えていきたいと感じた。

あらためて保育者に求められているニーズに男性である自分がどのようにかなえていくか、考える機会になりました。子どもたちとの関わりにおいて、力強さや体力面で運動のニーズに答えられるが、保護者の子育てや女性特有の相談においては困難なため、他の職員と連携を取りながら進めていく必要があると感じた。十分コミュニケーションをする上で配慮をしていきながらも、その他の相談事を伝えられるように、積極的に関わっていきたい。また、男性が苦手な未満児も体感として多いように感じるので、調べたり、別の男性職員に質問したりして、改善していきたいと感じた。

子どもの命を守ることに繋がる内容は、正しく自信をもって答えられるようにしていきたいと感じた。今回の内容の中では、健康支援、衛生管理、安全管理、災害の備えなどは特に見直したり、先輩の職員と確認したりしながら身に付けていきたいと感じた。また、一年目ということに甘んじず防災訓練など積極的に参加し、命に助ける取り組みなどが伝える力を身に付けていきたい。また、以上児と未満児の違いを明確にし、どの年齢の子どもが対象でも、安全に過ごせるように対応方法を身に付けていきたい。以上児の対応に慣れている分、来年以降、未満児の命を守る取り組みについて調べたり、先輩に質問したりして過ごしていきたい。

再度、法律や保育の基本を理解し直さないといけない。曖昧な中で毎日保育をしないとけない。

保護者、子ども達を大切にするためには、子を知ることが大切である。そのために一緒に遊び、観察し文面に残していくこと。子どもが有意義に園生活を送るために、子どもの興味関心を理解し、環境を整えていく。

「自分でやりたい」という子どもの気持ちをなるべく尊重できるようにするが、時間に追われていたり、他の事同じように動かなくてはと思ってしまい、先回りの援助をしてしまう場面があるなど気づき、反省している。子どもの声に耳を傾けられる保育者になれるよう日々努めていきたい。

安全面に配慮して保育をすすめているが、子どもが自分で考え行動する機会を作れているかもう一度振り返る必要があると感じた。保育者の考えや思いを伝えるだけでなく、子どもの意見も取り入れていきたい。

送迎時に保護者と関わる機会があり子どもの様子を共有しているが、タイミングが合わなかったり、双方の忙しさから十分に寄り添った関わりができていないのではと感じた。お迎えの時間のある時に家庭や園での姿、成長できたことを丁寧に伝えあえるようにしていきたいと思った。

余裕がない時などつい「ちょっと待っててね。」「後でやろうね。」と言ってしまふことが多くなってしまうと気づきました。その際は、詳しく「今〇〇をしているから終わったら行くね。」など見通しを持てるよう声を掛けています。なるべくすぐに対応して子どもたちの気持ちに応えることができるよう、私自身も心に余裕を持って行動できるよう心掛けていきたいです。

2歳児クラスでは、言葉で伝えられることが増えてきましたがその一方でうまく伝えられないもどかしさや自分の思いが通らず怒れてしまう姿も見られるようになってきました。その中で、保育教諭が仲立ちをし気持ちを受け止めることで、気持ちが落ち着いたり相手の気持ちにも耳を傾けてみようとしたりする姿があるため、子どもたちの言葉や話しに耳を傾ける時間を大切に關わっていきたいと思いました。

環境についてです。子どもたちの発達や興味を理解した上で、今の子どもたちに必要な活動について話し合う時間を作っています。クラスの保育教諭それぞれが子どもたちの出来事について話すことで、細かな興味について知ることができるためその遊びが広がるよう何か準備するものがあるか考え、すぐに実践することができるため職員間で話し合い、共通理解する大切さについて改めて気付くことができました。これからも子どもたちの遊びが展開するよう様々な素材を用意し、思い思いに遊ぶことができるよう環境構成を考えていきたいです。

保育者自己評価を行うことで、自分がうまく理解出来ていない分野や、今の保育に足りないことを改めて把握することができた。保育の中でも子ども一人ひとりの丁寧な関わりはもちろん、保護者の方とのコミュニケーションの取り方についても考えるきっかけとなり、家庭での様子や園での様子を共有しながら親子で安心して園に来て頂けるように心掛けていきたくと思った。

0歳児での保育中に、机の上に乗ってしまったり、いたずらをしたりしている時など、つい「×だよ」「いけないよ」と言葉を掛けていたが、まだ分からなくてやっていることもあるので、他の事へ興味を向けたり、誘ったりしてその場の環境を変えて子どもたちがストレスなく過ごしていくことも大切だと感じた。

毎日の保育の中で戸外遊び、室内遊びといつも似た活動になってしまっているの、自分の中でレパトリーを考えて職員同士話し合いながら子どもたちの発達、成長に合わせて玩具の入れ替え、環境構成を時期に合わせて変えていく、戸外での活動の準備をしていきたくと思った。

保育に関する法令や3つの柱、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の内容は知っているが、説明できなかつたり、要領・指針の新しいものは読んだことがあるが、新旧を比較したことがなかったため、確認し直していきたくと思った。

子どもの問いかけやすぐに対応できない時に、「待っててね」「後で行くね」と言ってしまうことがあったため、意識して別の言葉がけをするようにしていきたいと思う。

子どもが環境を通して様々な経験ができるように、物的環境・人的環境をフィードバックしてより良い環境設定ができるようにしていきたいと思った。そのために、他のクラスの環境構成を見たり、周りの先輩の保育教諭の方々にアドバイスを聞いたりして保育の質を高めていきたい。

「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を保護者に伝えることは、なかなか難しいと感じた。ドキュメンテーションでは知らせていったが、こちらがどんなに思いをもって発行しても、保護者が内容を理解していなければ意味がないと思う。保護者への詳しい説明の機会をもつことも考えたい。なかなか紙面では伝わりにくいと思う。今回は動画で子どもの普段の様子を伝えましたが、子どもの様子だけを見て、保育の内容までは伝わったのかどうかは疑問。

教育課程、全体的な計画、指導計画作成と評価では、見直すための会議は必要だと感じる。主体的な保育を語ることは大事だが、やはり基本的な事に立ち返ることが大事だと思う。今回、自己評価をする際に少し見直した。見直すことで、振り返ることもできた。保育をする上で保育要領などは大事なことなので、振り返る時間をもっていきたく。また、学年にあった内容の遊びや教材の準備も話し合っていく必要があると思う。

保健衛生に関しての研修を受けていたこともあり、環境・衛生管理・安全管理を改めて考えた。子どもの健康を守るための行動や、先を読んで声を掛ける大切さ、ケガや病気に対する知識等、再度考えていく必要を感じた。またそれは、職員間での共有もしていかななくてはいけない。嘔吐処理の仕方、ケガをしたときの対処方法、避難経路など、いろいろな事を話し合っていきたいと感じた。

法令は読んだことがあるとは思いますが、内容の理解や説明を問われるとまったく自信がない。定期的に読み直し考えたりする必要性を感じた。

「まってて、あとで、だめ」などマイナスな言葉を使わないよう心がけているが、時間的、気持的な余裕がないとつい使ってしまうことがある。より、意識したいと思う。

地域とのつながりを持つ機会を設ける必要性を感じた。災害時や虐待の対応などにもつながっていくのではないだろうか。

教育及び保育の配慮の部分で、「だめ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしているかや、「待ってて」「あとで」などと言わず、なるべくその場で対応しているかなど、普段の保育を振り返ってみるといつてしまっていることが多いと感じたので気をつけたいと思った。

一歳以上三歳未満児の保育に関わるねらい及び内容の言葉の部分で、「とったらダメ」「貸してあげなさい」など単に行動を制止して子どもの気持ちを抑えるのではなく、「どうしたの?」「困ったね」など思いを察して、共感して受け止める声かけや関わりをできるようにしたいと思った。

感染症が発生したときの対応の方法や災害への備えの知識が不十分だと感じたので、感染症が発生したり、災害が起こってしまったときにしっかり対応できるように、確認をしておく必要があると感じた。

法令など保育の基本について、理解が浅く、きちんと説明することができない。クラス担任ではないので、直接関わらないこともあり、回答しにくい事が多くあった。

保育のすすめ方子ども一人ひとりへの接し方など、普段からいろいろと気を配っているつもりだがチェックリストの文章として見ると改めて自分の保育について振り返って考えることができた。

第1章の6『子どもの発達』の点について振り返る中で、自分自身の保育の反省と振り返りが多くあった。開園1年目となり、特に0・1・2歳児は全員が新入園児であり、一人ひとりの発達を見極める難しさを感じながらも、俯瞰的に見守ることで、「その子の心地よい」を見つけられるように意識をした。情緒の面だけでなく、身体的な面でも特別な援助が必要な園児もおおりに、理学療法士や発達についての専門的知識をもった先生から助言をいただきながら、適切な関わりについて知ることができた。課題としては、しっかりと継続をして、子どもの育ちのために意味の支援にしていくことが大切であると感じる。反省を生かしていきたい。

第3章の健康及び安全では、全ての項目について学びがあった。現場で子どもたちの育ちを支援する・見守るだけでなく、まず念頭に命を守ることが重要である。感染症・熱性けいれん・ヒヤリハットにつながる怪我・事故など、1年間で様々な場面での対応があった。突然の場面でも、臨機応変な対応をする為に、自分自身が冷静に指示を出したり受けたりできるようにしておく必要がある。そのためには、十分な知識の基礎を知り、身につけておく重要性を感じ、自分自身はまだ無知である部分が多いと感じた。貪欲に学び、子どもの命を預かるといふ仕事に責任をもち、努めていきたい。

第5章の職員の資質向上の点では、改めて自分自身の保育教諭としての向上心や意識の在り方を見つめるきっかけとなった。今年度より、初めて仕事を共にする職員との連携やコミュニケーションの取り方に難しさを感じる場面が多くあるが、その反面自分自身の指示の出し方や伝え方に明確さをもつことの大切さも感じた。どの職員にも、簡潔明瞭に指示が伝わるような伝え方を意識していきたい。また、役割を理解しているかという部分では、後輩や同僚に対して言いにくいことも、業務上伝えていくべき立場である為、勇気をもって伝えていくよう、自分自身の課題とし、実践に移していきたいと感じた。

いくつかの項目の中で「共通理解が難しい」ということがたくさん出てきた。新設一年目ということもあり、今までの土台がなく、園の生活や計画の土台を作っていくためにも、職員全体で話し合う機会を作っていく必要があると感じた。このチェックリストもやって終わりにするのではなく、みんなで話し合っ、今足りてない部分をみんなで考えていくことが大切なのではないかと思った。

表現の項目について、園内の環境や楽器の数が少ないなど、子どもがいろいろな表現をする中で好きな物を選んだり、使ってみたりする経験ができるようにすることが難しいと思ったので、早急に環境として取り入れていきたいと思った。

まだまだ、活動として地域との関わりや小学校との連携など取り入れていきたいことが足りないと感じた。計画を立てる段階として今年中に、振り返りをしていく中で来年度のことを考えて計画し、連絡を取り合っておきたいと思った。

様々な面で勉強不足だという点です。特に以上児に関しては、8年以上もブランクがあり、色々と忘れていたことも多いと感じ、反省しています。自分で勉強していく事はもちろん、以上児のクラスのフォローに入らせて頂いた際には様々な先生方の保育を見させて頂いて、良いものは真似させていただきながら、スキルアップしていけたらと思います。

未満児も以上児も環境設定がすごく大切だと感じた、一人ひとりの姿を捉えて、ベストなタイミングでベストな環境を作る。そしてそれに保育者がベストに関わる。それが出来たら、子どもたちの成長・発達を大きく促せるがなかなか難しい。それに少しでも近づけるように日々勉強を重ねていきたいと思う。

子どもの安全管理や衛生管理、災害時の対応について『あれはどうするんだっけ?』となることが多く、自分でも心配になるところが多々ある。災害時対応に関しては、まだ避難先もしっかりと確認しておらず、いざという時に何も対応出来ない状況にある。どれも命に関わる事なので、マニュアル等、内容をきちんと見直し、内容把握に努めたいと思う。

保育に関するねらい及び内容の健康・人間関係・環境・言葉・表現それぞれの項目を読んでチェックしてみたことによってできていない内容が分かり、これからの保育で気をつけていかなければいけないところが分かった。

教育及び保育の配慮の項目については、毎日の保育の中で常に配慮が必要な内容なので意識して保育していけるようにしたい。

子どもが安心して過ごせるように穏やかな温かな気持ちで笑顔で丁寧に保育していけるよう心掛けていきたい。

実際に現場での自分の子どもたちとの関わりや実践保育については、感じたことや気を付けていたことが思い出されたり、項目を読んでイメージできたが、「教育・保育の基本」の項目については内容理解や違いの説明が難しいことがわかり、根本的なところが理解しきれていないことに気づいたことが大きかった。法令や教育要領などの新旧の違いなど、初心にかえってもう一度読み直して、理解を深めることが必要だと思った。今回のチェックリストで「保育の基本」を再確認する良い機会となった。

子どもの特性や家庭環境、保護者の特徴を理解することは保育をしていくうえで大事なことだと理解していたが、「一人ひとりの家庭での養育方針などを知ること」まで実際にそこまで出来ていないことに気づいた。家庭での養育方針を知ること、その子に合った保育が出来、子ども自身も家庭と園との違いに戸惑うことがなくストレスフリーでいられるのだろうと思った。保護者からしっかりと話を聞きその子に合わせた保育をしつつ、園での決まりやルールも取り入れることで集団生活も送れるようにしたいと思った。

チェックリスト全体を通して、現場以外での部分が未熟であることが分かった。園での保育だけでなく、もっと根深く知らなければいけないことがたくさんあるなど改めて感じた。経験値だけでなく、知識を増やすことが私のこれからの課題だと思う。私自身、地域のことについて情報を集めることが苦手なので、自分の住んでいる市のことについて、ホームページや広報などを定期的に閲覧するなどをしていこうと思った。「保育」は幅広いなど、改めて実感した。

教育要領や保育指針など読んだことはあるが曖昧のままになってしまっていたり、新旧を比較したことはなかったので定期的に読み比べておくことや内容を把握するためにも読んでおかないといけないと感じました。

障害児保育、気になる子への対応の仕方など定期的に園内で共通理解するためにも話し合う機会を作ることがなかなかできていない現状があるので話し合う機会を作ったり、研修に行く機会を作れるようにしていきたいと感じました。

新園で土台がない中、全職員で周知していくことなどを話し合う機会や会議を行っていかねばいけないと感じました。あいまいな部分があったりすることもあったので園の方針やしおりを自分自身がしっかりと読み込んでおくことも必要だし、毎年読み合わせをして職員一人ひとりが共通理解することが大事になってくるのではないかなと感じました。

第一章5の「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が自分の中で理解していないとチェックリストを行なって改めて気づきました。チェックリストをしなければ気づかなかった事なので今後しっかりと理解していきたいと思います。

第一章4 特別支援教育・障害児保育において保育士間だけでなく保護者・療育、医療機関と情報共有を密にしていかなければと感じました。子ども一人ひとり違うのでその子に合わせた保育や対応をしていきたいと思えます。

第4章2 地域における子育て支援についてなかなか地域の方との交流が少ない分、あった時は積極的に交流できればと思えました。私も子育て支援を利用し助けられた分、何かしらで助けたいと思います。

自己評価を行うことで、今の自分に足りないところを明確にすることができた。日々の保育の中で子ども一人ひとりと丁寧にかかわることはもちろんのこと、子どもが活動しやすい環境づくり、雰囲気づくりを常に意識して保育していきたいと感じた。

日々の保育の中で自分の遊び等の引き出しが少ないことによっていつも似た活動になってしまっている。子どもたちが楽しいと感じられる環境にするために、また自分の引き出しを増やすために、インターネットや保育雑誌、先輩保育者の実践を見るなど、子どもたちの発達段階に合わせて環境構成を変えたり遊びを提案したりしていけるようになりたい。

第3章をやって、自分には健康及び安全に関する関心が低いのではないかと感じた。自分の住んでいる市の災害発生状況については把握しているものの、園のある磐田市の災害発生状況については何も把握できていない。子どもの命を預かる立場として、子どもの命や自分、同僚の命を守るために磐田市のハザードマップを見たり、磐田市の災害発生状況を確認したりするなど磐田市で起こっていることについて興味を持たなければならぬと感じた。

「教育要領」「保育指針」「教育・保育要領」の新旧比較して読んだことがあり、その違いを説明できますかリストを読み、自分が意識していない部分であったと気付かされた。自分の中に、知識として身に付いていない為、身に付けるために、教育要領、指針の復讐をするだけでなく、現場でアウトプットし、知識として身に付けていきたいと思った。

災害への備えの設問で、いいえと回答した項目が多く確認不足・学び不足に気付かされた。過去に起こった災害の種類や程度の見直しや、ハザードマップの正しい見方を確認していきたい。また、災害時の避難場所について、保護者の目につく場所への掲示がされていないため、どの場所に掲示するべきかを職員で相談し、掲示準備をしていきたいと感じた。

健康支援の中の、学校保健安全法の法令やガイドラインを踏まえた対応が出来ているかとの設問で、難しい内容について避けてしまっていたと気付かされた。もう一度内容の確認をし、子ども達の安全のために学びを深めていきたいと思った

育みたい3つの資質、能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をしっかりと把握し説明できるようにしていきたい

保護者との信頼関係が大切だと改めて感じた。日ごろからコミュニケーションをとり良い関係が築けるよう努力していきたい。研修や自分の保育の振り返りで知識の習得や技能の向上等、自分磨きを心掛けていきたい。

2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容  
表現 子どもが主体的に動ける環境を用意することも大切だと感じた。

社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」  
1日の大半を園で過ごしている子どもにとって、最も身近にいる私たちと共に過ごすことで、愛着関係を築き信頼関係を結び、改めて私たちの責務を感じる。

2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容  
季節の行事など日本ならではの行事を経験するのも大切にしていきたいと思った。

方針や対応など理解しているつもりであったが、説明することに対する自信がないことに改めて気付きました。私自身が忘れやすいことも含め、読み込みが足りないと分かり、解説など手元に見えすぐに見ることが出来るものは特に日ごろから読むようにしていきたいと思えました。チェックリストを進めていくことで、改めて指針解説の大切さにも気づけたのでより意識していきたいと思えました。

保育の環境構成に自信がなかったため、チェックリストでも「いいえ」だったり、回答に悩んだりしました。子どもたちの個人理解を保育しながらもさらに学んでいくことで、適した環境を設定できるようにしていきたいと思いました。先輩方にも聞いたり、見て学んだりしながら自分の設定をよりよくしていけるようにしていきたいと思いました。

経験が長い方の保育は必ず参考になると思ったので、自分の保育を良くしていくために常に学び続けたいと思いました。

現時点でのチェックリストは割合として高いところが多かったと感じました。今後、自分の保育を理解していくことでさらに気づくことが出来ることもあると思うので、気付くことができるように考えながら保育をしていきたいと思いました。

「はい」に丸が付けられるように、今回のチェックを反省してこれから解説を読んだり、活用できるツールを知ったり、意識していきたいと思いました。

振り返ってみて、子ども一人ひとりのちょっとした表情、サイン、行動を見逃してしまうことが多くあった。見える部分、見えない部分両方の場面で子どもたちの気持ちを潰さずに気持ちを受け止める重要性を改めて感じる事ができた。

業務が忙しく子どもの訴えをしっかりと受け止め、向き合うことが少なかった。子どもと関わる時には、1人ひとりの今後のことを考えながら、声を掛けたり見守っていく重要性を改めて見つめ直すことが出来た。また、丁寧な保育をすることで、様々な子ども一人ひとりの見えな心基盤となるのが形成していくので責任をもって保育をしていく。

#### 第一章 教育・保育の基本 5,育ってほしい10の姿について

0歳児が、特に必要であると感じた項目は、「健康的な心と体」「豊かな感性と表現」である。生活習慣を身につける第一歩を行う。そのため、興味が出た時を逃さず丁寧にかかわっていくことが大切であり、これからもその瞬間を逃さないよう子どもを見ていく必要性を感じた。

#### 第2章「ねらい」及び「内容」 1.乳児保育に関わるねらい及び内容

温かい触れ合いスキンシップを大切にしているが、どうしても泣いて訴える子、甘えてくる子とのかかわりが多くなってしまっていることを反省した。排泄の際や食事での一対一の関わりを大切に、一日の中でどの子ども密にかかわれるように意識していく。

#### 第一章 教育・保育の基本 6,子どもの発達

毎日の繰り返しや、経験の積み重ねが子どもの成長につながることを意識し、保育を展開していく。同じ遊びを繰り返し行うことで安心する子どももいることも考えながら、少しずつ環境をかえたり玩具を見直したりと物的環境を整えていく。そのためには、一人ひとりの遊ぶ様子を注意深く見守り興味や関心を探っていく必要がある。

子どもへの接し方は、チェックをしていくなかでもできている点が多かったため、今後も子どもの気持ちに寄り添う・受け止めるなど大事に保育をしていきたいと思った。また、子どもが何をしたかったのか。どうして泣いているのか。など気持ちを汲み取ることも大事にしていく。

一人ひとりの出生時から入園をするまでの発育・発達の状況を聞かれたときに答えることができないと思ったため、児童表を見て頭にいらしておかなければと思った。

子どもの体調の変化に気づくことが遅かったことがあったため、いつもと違う様子か。泣いていたら、顔や手を触って体温が高くないか。検温をして確認をするなど丁寧に関わっていく。

外遊びへ行く前や食事の際など忙しい時に、子どもたちに対してせかしたり制止したりする言葉掛けを少しかけてしまったことがあったと反省した。今回の自己評価を通して振り返り、気付くことができたため忙しい時はより一層丁寧な関わりを心がけていきたいと思った。

子どもの発達に合わせた玩具や絵本を取り入れるようにしてはいるが、子どもたちのイメージや感性を豊かにしたり、発見や心が動いたりする体験は少ないと思うため、土や粘土、水などの様々な素材を取り入れながら色々な体験をできるようにしていきたいと思う。

災害時の避難リュックの中身をあまり点検していなかったため、今後いつ災害がきてもきちんと対応できるように定期的に中身を点検し、必要なものがあればすぐに用意したいと思う。